

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4691200010号		
法人名	有限会社 ネバーランド		
事業所名	グループホーム よいやんせ		
所在地	鹿児島県 霧島市 溝辺町 崎森 2759番地1 (電話) 0995-64-1188		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年4月4日	評価確定日	平成21年4月25日

【情報提供票より】 (平成21年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 4月 24日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤12人 非常勤3人	常勤換算15.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(日額)	250 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (H21年 3月 10日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 92.1歳	最低	80歳	最高	106歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳永医院 国立病院機構南九州病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

やさしさや温もりを感じながら、その人らしく楽しく明るく、地域の中で生きる暮らしを支援することに取組んでいるホームである。食にこだわり、無農薬野菜や産みたて卵を使った料理提供の他、地域との交流を大切にし、入居者と共に物産館に出店して販売も行っている。ホームの庭に建てられたモンゴルテントも地域との交流の場となっている。小規模多機能と隣接し、通いから入居にいたるまで、連携をとりながら利用者に喜んでもらえるようなケアをしている。広々した敷地内は野菜畑が広がり、にわとりや小鳥の鳴き声が聞かれ、季節の花に囲まれ、誰でも立ち寄ってみたいホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化した場合、家族・主治医・職員で話し合いを行ない、家族が宿泊しながら看取る支援体制があり、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、評価の意義を職員に説明し、自己評価を全職員で行い、評価結果をもとに改善に向けた話し合いをもち検討しながら、サービスの質の確保に活かすよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回小規模多機能ホームと合同で会議を行っている。入居者の状況や活動内容・行事内容等を報告し、委員の方々から活発な意見が出され、地域おこしを一緒に考える機会にもなっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に、職員が直接話す機会を持ち、何でも話してもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見は運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	無農薬野菜や産みたて卵を物産館に出したり、資源ごみの回収作業に参加する他、幼稚園・保育園・小中学生とのイモ掘りを通じた交流や体験学習の受け入れを行っている。地域の会合や介護研修の受け入れの他、霧島観光博覧会では地域の方にかまど炊きご飯や豚汁を味わってもらう等、地域と密着した交流を行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生きることのやさしさや温もりを感じながら、その人らしく、楽しく・明るく、地域の中で生きる暮らしを支援したいという思いが込められた理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、朝の申し送り時に、理念の唱和を行い、理解を深めながら、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	無農薬野菜や産みたて卵を物産館に出したり、毎月資源ごみの回収作業に参加している。幼稚園・保育園・小中学生の体験学習や地域の会合・介護研修の受け入れ、霧島観光博覧会ではかまど炊きご飯や豚汁を味わってもらおう等、地域と密着した交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価に取り組み、ケアの質の向上を目指している。外部評価の改善項目についても検討・改善が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能ホームと合同で会議を行っている。入居者の状況や活動内容・行事内容等を報告し、委員の方々から活発な意見が出され、地域おこしを一緒に考える機会にもなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と情報交換を行い、連携を図っている。市の主催する研修会や市内の事業所が集まる会議、霧島市小規模多機能ホーム連絡会に毎月参加し、サービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	小規模多機能と合同の「よいやんせ便り」と「百載物語」のホーム便りを郵送し家族に報告している。支払は毎月現金払いにしてもらい、家族の来所時に入居者の暮らしぶりや近況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に直接話す機会をもち、何でも話してもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見は運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視したケアを行っている。やむを得ず異動があった場合は、入居者や家族に紹介して、信頼関係が築けるよう引き継ぎ等に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は全職員が交代で参加し伝達講習を行っている。内部研修は勉強会を月1回実施している。新人研修では入居者とのコミュニケーション技術の向上や職員の動きを観察する独自の手法も取り入れながら、資質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や入居者と共に他グループホームのクリスマス会に招待されたり、イモ掘りに来所される等、他グループホームとの交流や相互訪問を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、併設の小規模多機能の通いや宿泊体験を通し、職員や入居者に馴染めるよう環境づくりを行い、本人や家族の意向を聞きながら安心して入居できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に学ぶという気持ちを持ち、本人のできる事や可能性を大切にしている。野菜や卵の出荷準備・販売所への同行・みそ作り・だんご作り・食事の準備・食器洗いなど、日常の中で一緒に過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や、日々の生活の中で本人の意向や希望を聞きながら、献立や買い物、家族と共に外食したり、誕生会を自宅で行うなど、自分で選択できる場面を多く作り、本人の意向に添った支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や希望を聞いたり、ケア会議の中で職員の意見を出し合い、介護計画を作成している。又、個別に「かかわりシート」を作成し、支援の統一向上を図る取り組みを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回のモニタリングと見直しを行っている。状態変化時は随時見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合いながら、本人の意向に添った通院の支援を行ったり、自宅迄の外出や外泊・墓参りに付き添うなど、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医となっており、24時間体制で、相談や往診など適切な医療処置が受けられる体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、主治医・職員・家族で話し合いを持ち、支援できる体制づくりを行っている。家族も宿泊しながら看取ったケースも2例あり、今後も満足した支援ができるよう取り組みを検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は個人情報の保護に関する説明を行ったり、入職時に誓約書をとっている。認知症であっても人生の大先輩である事を忘れず、人としての自尊心を大切にしたい関わりをするように、職員に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康状態や、その日その時の本人の状況や意思にそった暮らしができるよう、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した無農薬野菜や産み立ての卵料理・かまど炊きご飯・煮物も入居者に好評である。又、個々の状態に合わせた食事形態の工夫をしたり、調理から片付けまで職員と一緒にいるなど食事を楽しめるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入れる体制をとっている。入浴回避があっても週に4～5回は入浴できるため、無理強いすることなく本人のペースに合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を考慮し、生け花・草取り・卵とり・野菜の出荷準備など、本人の希望を取り入れながら、それぞれの生活を楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や庭でのソーメン流し・物産館での販売手伝い・お茶会等、ホームに閉じこもらない生活を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りと気配りを重視し、日中は玄関の鍵をかけずに、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練・通報訓練を行っている。地域の方にも協力していただけるよう声かけを行っている。災害時の備蓄も用意されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況が毎日記録されている。食事の摂取状況に合わせてミキサー食やトロミをつける工夫をしている。栄養状態の悪い方は栄養補助食品を使用する等、個々に応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭は季節の花が咲き、玄関・リビングにも花が飾られやさしさを感じる。共用空間にはたたみスペースの他、手すりの設置やソファ・椅子が置かれ、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンスや椅子・コタツ・ベッド・写真など、馴染みの物が持ち込まれ、個性的で本人が安心して過ごせるよう工夫している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。